

## 巻頭特集「民のチカラによる環境活動の広がり」～エコロジスタのすすめ～



※左から、大阪城天守閣、中央公会堂、道頓堀、大阪市立美術館。いずれも市民や民間によってつくられた。

### 1. はじめに

これまで、「おおさかの環境」の巻頭特集では、環境問題を身近に感じ、考えていただけるように、「大阪湾」、「生物多様性」、「エネルギー問題」など様々なテーマをとりあげ、わかりやすくご紹介してきました。

その中で繰り返しお伝えしてきたことは、環境問題は行政だけでは解決できないほど大きな問題であり、解決のためには企業・団体を含めて府民のみならずのご協力や協働が欠かせないということです。

歴史に目を向けてみると、大阪という街は、そこに住む人自身の手でつくられてきたことがわかります。例えば、大阪のシンボルである「大阪城」の天守閣は、現在のもので三代目ですが、これは

昭和初期に大阪市長の提案により、市民の寄付を集めて再建されたものです。

また、江戸時代の大阪は、他の地域と比べても「自立・自助」の精神が強い土地柄でした。大阪の町人は、自分たちの町を自分たちでつくり、困ったときにはお互い様で助け合う、ということを当たり前に行っていました。

たとえば、当時重要な輸送手段であった船を使うため、商人は船の通路としてたくさんの堀川を掘り、橋を架けましたが、その多くは建設や維持管理にかかる費用を、恩恵を受ける商人や、橋の近隣の住民が支払うという仕組みがありました。こういった堀川や橋には、お金を出した人の名前などがつけられ、「淀屋橋」や「道頓堀」など、今も地名として残っています。

### コラム1 みんなで「橋洗い」

現在でも、江戸時代にならって、みんなで橋をきれいにしようと、地域の住民や団体、また働くみなさんと大阪市と一緒に「橋洗い」を行うといった官民協働での取組が行われています。



今年10月に大阪市内最古の現役橋「本町橋」100周年イベントで行われた「橋洗い」の様子

現代の助け合いの活動としては、「ボランティア活動」が代表的です。当初、ボランティア活動は、特に意識の高い人が行うもの、というイメージがありましたが、「阪神大震災」が起こったとき、広く一般の方が参加し、「ボランティア元年」と呼ばれ、その後の NPO 活動などの社会貢献活動の高まりのきっかけとなりました。

環境問題は、過去に多く発生した局地的で原因が明らかな「公害」から、地球温暖化やゴミ問題といった、住民も含めて誰もが「原因者」になり得る上に、将来にまで影響するような複雑な問題に変わってきています。

特定の原因者がいないような問題は、1人ひとりが意識したり、力を合わせて対処することが重要です。現代は、「個」の時代と言われ、「つながり」によって大きな力が生まれる可能性を秘めています。

ここでは、肩肘張らずに自然とエコなふるまいができる人を「エコロジスタ」と名付けてみました。1人ひとりが「エコロジスタ」になることで、きっと住みやすいまち、明るい未来がやってくると感じていただけたと思います。

## 2. 公害の歴史と市民の関わり

まず、公害の時代から現在に至るまでの、環境問題と市民との関係の変化を見ていきましょう。

日本での公害問題は、戦後の高度経済成長期にピークを迎え、その後、環境に関する規制などによって徐々に改善していくこととなりますが、その解決には住民運動が大きく関わってきました。

### (1) 公害問題と反対運動の歴史

高度経済成長期に発生した環境問題は、いわゆる産業型公害と呼ばれ、その原因は主に企業活動によるものでした。そのため、当時の住民運動は公害の原因企業などに対して操業停止を求めるなどの、いわゆる反対運動が主なものでした。

大阪においても、工業化の影響で戦前から多くの公害問題が発生し、「水の都」大阪も当時は「煙



写真1 ばい煙を吹き上げる工場群(1960年代)  
(上) 木津川河口付近 (下) 西淀川区

の都」と言われ、とりわけ 1960 年代から、その深刻さは増していきました。

当時の大阪市西淀川区では「西淀川公害」と言われる深刻な公害問題が発生しました。戦前から西淀川区は阪神工業地帯として工場が建設され、大阪と神戸をつなぐ場所に位置することから、大きな道路も数多く建設されました。その影響もあり、大気汚染を中心に、いわゆる典型7公害（水質汚濁、大気汚染、土壌汚染、悪臭、騒音、振動、地盤沈下）が全て見られる最悪の状況でした。これまで西淀川区だけで累計 7,000 人を超える人が、公害病の患者として認定されてきました。

そして、この西淀川区の深刻な状態を打開すべく、多くの反対運動による交渉やはたらきかけが行なわれ、企業の公害防止策や補償制度の実現に影響を与えました。また、この公害問題により起こされた「西淀川公害訴訟」の和解金によって、公害の影響を受けた地域の再生を活動目的とする「あおぞら財団（公益財団法人公害地域再生センター）」が設立され、現在も地域住民の立場から



写真2 西淀川公害の反対運動  
 (上) 裁判の決起集会の様子  
 (下) 被告企業との和解確認式

様々な活動に取り組んでいます。

## (2) 住民参加による琵琶湖の水質保全

企業活動を原因とする公害は、1960年代以降に国や地方自治体による環境規制関連の法令が施行され、改善が見られるようになりました。その一方で、高度経済成長により豊かになることで、排水など一般家庭からの環境負荷による公害問題が見られるようになり、これまでの反対運動とは違った住民活動が見られるようになりました。その1つが、大阪の水がめである琵琶湖の大規模な赤潮発生をきっかけとした、いわゆる「石けん運動」です。

1977年(昭和52年)、琵琶湖に初めて大規模な赤潮が発生しました。赤潮の原因は、栄養塩の大量流入によるプランクトンの異常増殖ですが、その栄養塩の大きな供給源が合成洗剤に含まれる

リン酸塩であること、つまり住民生活が琵琶湖を汚す一因になっていることがわかりました。これは、それまで琵琶湖が汚れているという意識がなかった住民にとって非常にショッキングな出来事でした。

このことを契機として、琵琶湖を美しくするため「合成洗剤ではなく、安全な粉せっけんを使おう。」という通称「石けん運動」が、あらゆる県民団体の間に広がっていきました。マスコミ報道や、県・市町村の広報によるキャンペーンの後押しもあり、石けんの使用率は急激に高まっていきました。この「石けん運動」の広がりを受け、ついには1979年(昭和54年)にリンを含む合成洗剤の県内での使用・販売を禁止するとともに、工場などからリンや窒素の排出を規制する「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例(琵琶湖条例)」が滋賀県議会の満場一致で可決されるまでになりました。

この運動はそれまでに行われていた、企業の操業停止を求める、または行政に対し規制を行うよ



写真3 石けん運動の様子  
 (上) 啓発運動 (下) 使用方法の説明会

## コラム2 ブルースカイ計画

1965年（昭和40年）ごろの大阪の空は工場のばい煙などで白く煙がかかった状態でした。これらのばい煙には喘息などの呼吸器障害の原因となる硫黄酸化物（SO<sub>x</sub>）を含んでおり、人体への影響も非常に深刻な状況にありました。1968年に大気汚染防止法が制定されましたが、大阪では工場立地が進んでおり、法規制だけでは不十分であるとの判断から、1969年から71年にかけてSO<sub>x</sub>に係る環境基準の達成を目標とし、日本で初めて工場等に対し使用する燃料中の硫黄分を規制（燃料規制）するという計画（ブルースカイ計画）を策定しました。

当時、燃料として多く使われていた石炭を、硫黄分の少ない石油に変更するよう企業にはたらきかけたり、燃料を供給する事業者が硫黄分の少ない燃料を供給するよう交渉するなど、粘り強く取り組んだ結果、1972年度には目標を達成することができました。

現在では、ごく普通に青い空を見ることができますが、「ブルースカイ（青い空）計画」と名付けた計画を作らなければならないほど、当時の大気汚染が深刻だったことを示しています。



大阪府庁本館から見た大阪城周辺の大気の状態 （左）1966年（昭和41年） （右）現在

うに求めるといった反対運動とは異なり、住民自らが環境の保全のために代替案を提案し行動するという参加型の運動であり、それが原動力となって琵琶湖を守るための条例が制定されるという結果となりました。これは住民自らの活動が、行政も巻き込んだ大きな動きにつながっていくという、民の力の大きさを示すものではないでしょうか。

### 3. NPO、企業による環境活動

#### ～エコロジスタへのヒント

住民運動は、公害問題に対する「反対運動」から、石けん運動などの「市民提案」へ移行してきましたが、1992年に地球サミットで採択されたアジェンダ21が、「市民提案」から「自主行動」へとさらに発展していく契機となりました。また

その頃は、地球温暖化や廃棄物問題など、住民をはじめ、あらゆる主体が「原因者」であり「被害者」でもあるという環境問題が注目され始めた頃でもあり、自ら主体的に環境活動に取り組む動きが活発になりました。

NPOや企業が取り組む環境活動で、みなさんがエコロジスタになるヒントになるような、ごく身近で行われている事例をご紹介します。

#### （1）NPOによる環境活動

環境問題に取り組むNPOは、市民の立場や視点で環境問題の解決を目指し、地域のニーズに応じて環境教育や清掃活動を行うなど、きめ細かな活動をしています。

### (解説) アジェンダ 21 とは？

アジェンダ 21 とは、1992 年にブラジル・リオデジャネイロで開催された国連環境開発会議「地球サミット」で採択された、持続可能な開発を行うための行動計画です。

それ以前の大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会システムが、地球温暖化などの地球規模の環境問題や資源の枯渇などの問題を引き起こしてきたため、未来は危機に陥るといわれていました。

そこで、市民生活や経済活動を「消費・廃棄型」から「循環型」へ変えることによる、環境と共生する持続型社会づくりを目指して、産業界や市民などが自主的にどのような行動をすべきかを示したアジェンダ 21 ができました。

これを受けて大阪府では、府民や事業者などが話し合い、地域の環境を守るアジェンダ 21（ローカルアジェンダ 21）として、「豊かな環境づくり大阪行動計画」を毎年策定しています。

様々な環境活動を行っている NPO がありますが、2011 年に計画停電や節電要請があったことを機に、これまで以上に省エネに関する取組が活発に行われるようになりましたので、最近行われたものをいくつかご紹介します。

### ●節電コンテスト

省エネに取り組んでもらうため、各家庭での電力使用量の削減コンテストを企画し、昨年より削減できた家庭や、「おもしろい！」取組には景品をプレゼントする NPO があります。参加者が実際に行った節電行動には、「冷蔵庫のまわりの熱の発散をたすけるために濡れたシーツを貼りつけた」や「電力の使用量を記録するだけで使用量が減った」というようなユニークなものがありました。使用量を記録するだけで節電できるとは驚きですね。



写真4 節電コンテストのチラシ

### ●My ゴーヤを育てよう

建物の壁にゴーヤなどのつる性植物を這わせた「みどりのカーテン」を作り、室内や建物の外壁に夏の直射日光が当たるのを防いで室内のエアコンの使用量を減らす活動が盛んになってきました。

さらに、「やってみたいけど、育て方がわからない」、「家に植える場所がない」という方のために、ゴーヤの育て方の指導と育てる場所をセットにして提供している NPO があります。しかも、育てたゴーヤは自分のものになるそうです。環境活動に取り組みながらゴーヤも収穫できる、とてもうれしい取組ですね。



写真5 My ゴーヤによるみどりのカーテン

### (2) 企業による環境活動

近年、環境保全をはじめとする様々な CSR 活動（企業による社会貢献の活動）に積極的に取り組み、従業員の士気向上、企業の知名度やブラン

ドカの向上につなげている企業が増加しています。

持続可能な社会を実現するために、未来を担う子供達に環境教育を行ったり、廃棄物を減らすなど、産業界が自主的に取り組んでいる例をいくつかご紹介します。

### ●企業の社員が伝える体験型環境教室

小学生を対象に地球温暖化問題と工場でのリサイクルなどの環境活動について説明し、子どもたちが取組める節電などを講義や実験を通して伝えたり、学校に出張して実験や講義をする環境教室を行っている企業があります。



写真6 体験型環境教室の様子

### ●ホームページや絵本で学ぶ環境

企業のホームページには、クイズに答えて自分のエコレベルを測ることができたり、ゲーム感覚でごみの分別を体感できるなど、簡単に環境学習ができるものがあります。また、小さな子供向けに、森林の伐採によってすみかを追われた動物の悲しみや都市の汚れた空気を吸いこんできれいな空気にする葉っぱの活躍を描いた絵本が公開されています。これらは、子供たちが環境について考えるきっかけになっています。

将来を担う子供達が環境保全について学んでいますので、大人世代も一緒に学んでみてはいかがでしょうか。



写真7 環境絵本「森の住人ハッピー」

### ●環境の視点を組み込んだ事業活動

他にも、企業では、店舗で使用する照明を消費電力の少ないLEDに変換したり、社用車を燃費の良い車にしたり、廃棄するときにリサイクルしやすい製品を開発するなど、あらゆる業種で環境に配慮した事業活動を行っています。

例えば、コンビニエンスストアは、エネルギーをたくさん使っているイメージがありますが、最近ではLEDや太陽光発電などに加えて、地中の熱を活用した空調設備や、自然の光を取り入れるための天井窓を採用したり、照明の効率を良くするために床面を反射しやすい素材にするなど、徹底した省エネ型の店づくりをしています。



写真8 環境配慮を徹底したコンビニ店舗



写真9 (左) 小袋に分けた仕入れ食材  
(右) 小サイズのメニュー

また食品産業の例では、あるレストランチェーンで、仕込み食材を小袋に分けて管理して余分な食材を減らしたり、「小ごはん」や「ミニ麺」など、少量メニューを作って食べ残しを減らす取組をしているところもあります。

外食産業では、作るときに発生する食品廃棄物はほとんど無くなってきており、ゴミとして捨てられる食品廃棄物の多くはお客さんの食べ残しと言われています。みなさんの家庭ではどうでしょうか？食べられる量を考えて注文したり、消費期限などを考えて必要な量だけ購入することがとても大事ですね。

#### 4. 官民連携の取組み

企業やNPOの取組みを紹介してきましたが、行政（官）と、企業やNPOなど（民間）が協力して活動する「官民連携」の取組みも広がってきています。

具体的には、公共施設の清掃・美化活動や災害時の協力、地産地消の推進等について、官民間で協定等を締結し、互いに協力する事例が多く見られます。

この背景には、「住民の価値観やニーズが多様化する一方で予算は限られているため、全てを行政が実施できない」という行政側の課題と、「安心して活動できる場所を確保したい」「活動を通して地域や消費者とのつながりを築きたい」という民間側の要望の合致が見られます。お互いにメリットを感じながら、公共の利益にもなるという一石三鳥の活動なのです。

大阪府でも、様々な形で官民連携の環境活動に取り組んでいます。

#### (1) 民間の協力を得て活動！

～アドプト プログラム

みなさんはこんな看板を見たことがありませんか？

#### コラム3 企業の環境への取り組みの評価

近年、環境への取り組みを外部から評価してもらう企業が増えています。国際規格として有名なISO14001という仕組みもありますが、費用がかかるなど、中小事業者にとってハードルが高いため、これとは別に「エコアクション 21」、「KES」、「エコステージ」といった国内制度がつくられています。

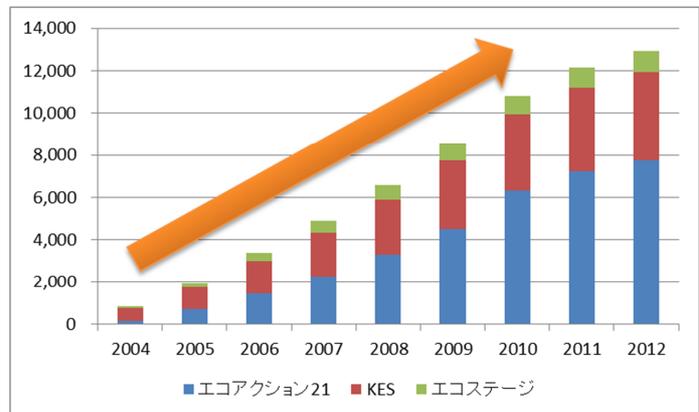
環境への取り組みを適切に実施し、環境経営のための仕組みを構築、運用、維持し、環境コミュニケーションを行っている事業者を認証、登録する制度で、中小企業でも認証を受けやすいことから、登録事業者数は年々増加しています。



エコアクション21



各制度のロゴマーク



認証登録事業者数（累計）の推移



写真10 アドプトロードの看板

アドプト (ADOPT) とは、英語で「養子にする」という意味です。アドプトプログラムでは、道路や河川、森林を“自分たちの子供のように育てていく”というコンセプトのもと、市民グループや企業等が清掃、緑化、草刈り、森林管理などを実施しています。大阪府では、アドプトロード（道路）416 団体、アドプトリバー（河川）175 団体、アドプトシーサイド（海岸）12 団体、アドプトフォレスト（森林）42 団体（いずれも2012 年度末時点）がそれぞれ活動しています。

アドプトプログラムでは、それぞれの活動団体が管理を任されることにより、責任感と愛着心が生まれ、工夫を凝らした管理が行われています。中には、こんなユニークな活動もあります。

#### ●アドプトリバー内田

和泉市松尾川でアドプトリバーの協定を結んだ内田町内会は、2002 年 8 月から、全国でも珍しい取組みである「ひつじ飼育による河川環境づくり」を実施し、町内会と子供会が中心となってひ



写真11 アドプトリバー内田

つじの世話を毎日行っています。ひつじの導入によって、河川敷から雑草がなくなり、ごみの不法投棄を防止する効果もあったようです。何よりも、ひつじに会える河川敷として地域の方々に親しまれるようになりました。2007 年度には国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」が授与されました。

#### ●アドプトフォレスト神於山（こうのやま）



写真12 アドプトフォレスト神於山

岸和田市神於山は、市街地に近い里山として古くから親しまれてきましたが、近年、手入れ不足により竹林の拡大などが見られ、荒れた山になっていました。そこで、アドプトフォレスト制度を活用し、シャープ(株) (2006 年～)、住友ゴム工業(株) (2008 年～)、丸紅(株) (2011 年～) が森林整備に参画し、社員自らが、竹林の整理や広葉樹の苗木を育てるなどの活動を行っています。

また、神於山では、NPO 法人神於山保全くらぶや、地元の小学校、ロータリークラブ、漁協などの様々な活動団体が集まって協議会を作り、活動地訪問を行うなど団体同士の交流も進んでいます。企業が森林づくりに参画するのは、CSR 活動の一環というだけでなく、社員教育や福利厚生の場合と考える企業も多く、神於山の活動では、地元との交流が深まることも魅力の 1 つとなっています。

#### (2) 民間の力を借りて宣伝！

#### ●大阪産（もん）

大阪府では「水なす」や「大阪ふき」など大阪府内で栽培・生産されている農産物や水産物など一次産品やそれらを使った加工品を大阪産（もん）



写真13 (左) 大阪ラーメン

(右) 大阪産(もん) ロゴマーク

として、新たなブランドで推進しています。

その大阪産(もん)を「もっと普及したい」という行政と、「ご当地ラーメンを作りたい!」という民間の思いが一致し、「それゆけ!大阪ラーメン」という商品が生まれました。

「大阪ラーメン」とは、産業経済新聞社とエースコック(株)が大阪のご当地ラーメンを作ろうという目標を掲げ、さらに泉州たまねぎの生産者の集まりであるJA大阪泉州や行政である大阪府も連携して作った即席ラーメンです。

大阪府は、食材となる大阪産(もん)の情報を提供したり、製造者に生産者を紹介したりすることで、ご当地の食材をアピールしました。

これら大阪ラーメンの取組はエースコックのホームページに「開発ストーリー」として紹介されています。また、2012年9月に通天閣で記者発表会がされました。

さらに「商品を作る」だけでなく、原料をエースコック(株)の職員やその家族が「育てる」取組も行われています。子ども達が実際に土に触れながらたまねぎを育てることは、環境教育の一環になるなど、様々な分野に発展しています。

また、大阪産(もん)は地域の産業を活性化させることに加えて、地域で消費する「地産地消」に貢献しています。一般的に、製品を製造するときには、他の地域から必要な素材を車や船で輸送して、加工を行います。「地産地消」は輸送時に発生するエネルギーの削減につながるエコな取組みの一つです。

### ●広報での連携・タイアップ

大阪府では、映画やイベントなどの宣伝ポスターに大阪府の行う施策や施設のPRを組み込んだタイアップポスターの取組みを5年前から行っています。その背景として、イベント等の主催者は、大阪府の持つ特徴的な場所(庁舎を含める公共施設)を使って宣伝できるというメリットがあり、大阪府としては、企業媒体と一緒に宣伝することで、府民の皆さんにメッセージを伝えやすくなる、というメリットがありました。

今年は、これと同じような仕組みで、この「環境白書」の巻頭特集を子供向けのパンフレットに編集し、企業の広告を入れる代わりに印刷協力をいただき、府内の小学校5年生全員(約8万人)に配付するという取組みを初めて行い、ご好評をいただきました。



写真14 2013年夏「GeGeGe 水木しげるの妖怪樂園」とのタイアップポスター ©水木プロダクション



写真15 環境白書こども向けパンフレット



写真 16 ウェルカムガーデン新大阪

また、印刷物の連携以外にも、体育館や歩道橋など公共施設の名称に企業の社名やブランド名を付けて広告媒体として活用いただき、施設の資金調達を図る「ネーミングライツ」という仕組みが各地で実施されています。

この仕組みを応用し、大阪府では、街中に民間主導でシンボリックな「みどりの空間」をつくるべく、緑化の施工・維持管理を負担していただく代わりに、企業のロゴマーク等を掲示できる仕組みで緑化を進めています。その第1弾として2012年7月、大阪の玄関口であるJR新大阪駅前に「ウェルカムガーデン新大阪」ができあがりました。

公募で企業からデザインを募集し、応募デザインを改札前に並べて利用者による公開投票を行う仕組みは斬新で、マスコミなどにも大きく取り上げられました。

## 5. やって楽しい、知っておトク！

### ～身近な環境活動でエコロジスタになろう！

このように、環境活動は、企業やNPO、行政を中心に活発になり、今や様々な方法・内容で幅広く行われるようになりました。それらは、グループや団体の一員として参加して行うものもあれば、自宅で作れるものもあります。楽しく活動するためには、あなたに合った活動からやってみることが一番です。ここでは、意外と簡単に行える身近

な環境活動を紹介します。気軽にエコロジスタ生活を始めてみてください。

#### (1) 生活の中の環境活動

##### ●CO<sub>2</sub>の見える化

皆さんの家庭で、毎月どれだけの二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)が排出されているかご存知でしょうか。

一部の企業や自治体では、家庭での省エネ・省CO<sub>2</sub>の取組みをサポートするため、電気やガスの使用量から、CO<sub>2</sub>排出量を数値やグラフで「見える化」できるツールとして「環境家計簿」が作成されており、大阪府では、「めっちゃエコやねん」という名前で公開されています。

「環境家計簿」を毎月つけていけば、「どうして今月は二酸化炭素排出量が増えてしまったのかな？」と考えながら、効果的な省エネ・省CO<sub>2</sub>対策につなげることができます。無駄に使われているエネルギーを見つけて削減できたら、環境に優しいだけでなく、電気代やガス代が浮いて経済的にもお得です。

さらに、環境家計簿をつけるとともに、ネット上で排出削減量のランキングを競ったり、エコのアイデアを共有したり、ポイントを獲得して景品をもらえるなど、モチベーションを高めて取り組める工夫もみられます。

私たちの行動が、どれだけ環境に貢献しているのかを確認しながら、楽しく取組めそうですね。

##### ●買い物でできるエコ

食料品、衣服、電化製品・・・買い物をする機会は意外と多いですね。日常的な買い物でもできる、環境に配慮した行動とは、どんなものがあるのでしょうか。

グリーン購入は、購入の必要性を十分に考慮し、価格や品質だけでなく、環境負荷が小さい商品やサービスを優先して購入することです。例えば、マイバッグを持ってレジ袋を断ることや、包装の少ない商品を選ぶことは、ごみを減らすことにつ



写真 17 紙コップ飲料 1 杯購入毎に  
10 円が基金へ寄付される自動販売機

なおります。また、廃ペットボトルを再生して作られた衣服や、古紙を多く使った再生紙を購入することは、資源の持続的な確保に貢献することができます。「エコな買い物」と言うことができます。

環境配慮型の商品を買うことは、その商品を生産している企業や業界に対して、そういった商品の開発を促すことにもつながります。新しい行動を始める前に、普段の生活のなかで、こういったことを少し意識するようになるだけで、環境活動を実践できるのですね。

## (2) 環境活動を支える環境活動

### ●「環境基金」で活動支援

「環境基金」は、多くの方から寄付の協力を得て、環境負荷の低減や環境保全の取組み推進等に活かしていくために国、地方自治体、企業やNPO等様々なところで設置されているものです。

寄付の方法は直接振込みが一般的ですが、身近な例としては、お店等に環境基金の募金箱が設置されているのをみなさんも目にしたことがあるのではないのでしょうか。

最近では、特定の商品の売上金額の一部が社会貢献活動に寄付される「コース・マーケティング」を行う企業が増えてきています。例えば、大学内の紙コップ自動販売機で、紙コップ飲料 1 杯購入するごとに 10 円が基金へ寄付されたり、金融機関への預入金額の一部相当額が基金に寄付される事例があります。このような商品を自ら選択することで、より簡単で気楽に寄付が行えるようになってきています。

集まった基金は、これまでも、国内の森林整備事業、環境教育、省エネ事業の推進や、海外の環境保全にも、幅広く活用されてきました。

環境活動事業資金の一部となる環境基金は、環境活動を行う人や団体にとっては大きな支えとな

### コラム4 環境ラベルを調べてみよう！

環境ラベルとは、消費者が環境保全や環境負荷の低減に役立つ商品や取組みを選べるよう取り付けられたマークのことです。日本工業規格によって標準化されたものや、企業や地方自治体が独自に決めたものなど、種類も特徴もさまざまです。「エコな買い物」の判断の目安になるので、どんなものがあるか、どういう意味があるのか調べてみましょう。

(環境ラベルの例)



エコレールマーク



エコマーク



グリーンマーク



カーボ footprint



間伐材マーク



ノンフロンマーク



統一省エネラベル



写真 18 「大阪府環境保全基金」の補助を受けて行われた木育による森林の二酸化炭素吸収機能啓発事業

っています。直接現地で活動するものではなくとも、基金等に寄付することによって、環境活動を行う人々を支援することも、重要な環境活動なのです。

### (3) 人とつながる環境活動

～エコロジスタの輪を広げよう！

#### ●イベント参加

森や川で自然の大切さを学ぶ環境学習、公園等で行われている動植物の観察会やエコツアー、広

場でのリサイクルバザーや、ライトダウンキャンペーンなど、特に休日にはたくさんのイベントが開催されています。

このようなイベントに参加することは、環境保全の大切さを直に感じる良い機会でもあります。

イベント情報は、お住まいの地域の市町村だよりや、公園のHP等に掲載されていることがあるので、チェックしてみてもいいでしょうか。

街中でも自由参加型の環境イベントが開催されていることもあるので、見つけたらぜひ参加してみましょう。参加者同士の交流の中で、もっと面白い情報が手に入るかもしれません。

近年は、情報発信方法が多様化し、より環境活動の場が広がり、私たちもより簡単に、より身近なものとして環境活動を知ることができるようになりました。手軽に、楽しく取組めるようなアイデアなど、環境活動への参加意欲を引き出す工夫も、至るところで見られます。

環境保全は、私たち一人ひとりの小さな心がけの積み重ねが大きな効果をもたらします。

あなたも、身の回りにどんな環境活動があるか探してみ、生活の一部に環境活動を取り入れてみませんか？

#### 《写真・資料の出典・提供元》

写真1、2 あおぞら財団附属 西淀川・公署と環境資料館 / 写真3 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課 / 写真4、5 特定非営利活動法人ひらかた環境ネットワーク会議 / 写真6 シャープ株式会社 / 写真7 三洋商事株式会社 / 写真8 株式会社セブン-イレブン・ジャパン / 写真9 サトレストランシステムズ株式会社 / 写真10、11 現地において大阪府が撮影 / 写真12 特定非営利活動法人神於山保全くらぶ / 写真13 (大阪ラーメン) エースコック株式会社 (大阪産(もん)ロゴ)大阪府 / 写真14 水木プロダクション・株式会社朝日新聞社 / 写真15 現物を大阪府が撮影 / 写真16 現地において大阪府が撮影(施工・管理:大和リース株式会社) / 写真17 大阪府立大学生協 / 写真18 特定非営利活動法人もく(木)の会

コラム1 現地において大阪府が撮影(主催:大阪府商工会議所) / コラム2 大阪府が撮影 / コラム3 各制度の実施団体(一般財団法人 持続性推進機構 (IPSuS)、特定非営利活動法人 KES 環境機構、一般社団法人エコステージ協会) / コラム4 環境省 Web サイト「環境ラベル等データベース」

巻末に役立つ情報源をまとめた「エコロジスタの第一歩を踏み出そう!」を掲載しています。